



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア・イスラエル：ゴラン高原をめぐる緊張

シリア国内での戦闘が激化しているが、ゴラン高原への波紋は、これまで比較的少なかった。しかし、5月に入り、従来とはすこし違う動きが続いた。

2012年9月頃から、ゴラン高原の非武装地帯付近での政府軍と反体制派の戦闘の際の流れ弾が、時折、イスラエル側に着弾するようになった。イスラエル軍は、報復砲撃をしたことはあるが、基本的には、偶発的な越境砲撃だとしていた。

2013年5月になり、これまでとパターンが違う出来事が起きた。

・ゴラン高原に展開する国連部隊（UNDOF）の民間要員が、2013年の2月と5月の2回、反体制派側に短時間拘束されたことがある。しかし、5月15日には、非武装地帯の監視ポストにいた軍事要員が、短時間、拘束されている。拘束した犯人は不明である。同拘束の際、監視ポストが破壊された。

・5月15日、ゴラン高原のヘルモン山に迫撃砲弾が着弾した。

・5月21日、イスラエル軍は、シリア側から19日夜から、3日連続で、同じ場所からイスラエル側に攻撃があったとして、同攻撃地点をミサイルで攻撃した発表した。イスラエル軍は、この砲撃は偶発的ではないと判断したようだ。

・5月21日、シリア国営放送は、シリア軍が、イスラエル軍の車両がシリア側に進入したので破壊したと発表した。イスラエル側は、車両が銃撃を受けて破損したこと、シリア側から攻撃のあった場所を報復攻撃したことは認めたが、シリア側への車両の侵入は否定した。（なお、5月21日の事件が、2件なのか、1件の事件が2通りに報道されたのかは、今の時点では曖昧である。）

5月21日の事件後、イスラエル軍のガンツ参謀総長をはじめ、空軍司令官など軍幹部がシリアに対して警告する発言を行っている。

## 評価

イスラエルとシリアは、ゴラン高原で緊張が高まることを避けてきた。シリアが内戦状態になっても、両国の立場は変わらない。また今のアサド政権に、ゴラン高原で緊張を高める余力はない。ただ大規模な戦闘はないとしても、イスラエル軍のシリア領内空爆の波紋が、小規模な形でゴラン高原にあらわれる可能性はある。イスラエル軍は、シリアからヒズブッラーに高性能の武器がわたることは阻止すると明言している。2013年には、すでに3回のシリア領内空爆を実施している。今後も空爆が行われる可能性はある。そうした場合、またゴラン高原で、小さな事件が起きるかもしれない。

（中島主席研究員）